4）湖　　沼

本県の主な湖沼としては、北潟湖（面積2.04㎢）や三方五湖（面積10.63㎢）をはじめとして、武周ヶ池、刈込池や夜叉ヶ池、ならびにダム湖としての九頭竜湖や麻那姫湖などがあげられます。

沿岸部に位置する北潟湖や三方五湖は、古くから漁業の場として利用されてきましたが、近年では、湖周辺の環境変化や生活の向上に伴う排水によって、閉鎖性水域特有の富栄養化による汚濁が進んでおり、湖の一部では景観悪化等の問題も生じています。

本県では、昭和62年度から全国に先がけて、地元住民の協力を得て「生活雑排水浄化推進員制度」を発足させるとともに、また、平成元年度からは「北潟湖・三方五湖水質保全総合対策事業」を積極的に進めています。

北潟湖、三方五湖はいずれも国定公園に指定されており、遊覧船観光やドライブコースとしての道路整備等が行われています。近年では、蓮如上人の遺徳をしのぶ吉崎舟まいりの復活（金津町）やカヌー競技の普及（芦原町）などにみられるように、湖面を舞台としたイベントの開催やスポーツの振興等も図られています。また、麻那姫湖や龍ヶ鼻ダムなどもハイキング、キャンプ場の設備が整えられています。

今後、積極的に水質浄化活動や浄化意識の普及に取り組んでいくとともに、湖周辺地域の風土と歴史をいかした、アメニティ資源としての利用を進めていく必要があります。



カヌー競技の普及（芦原町）

アメニティ・トピックス

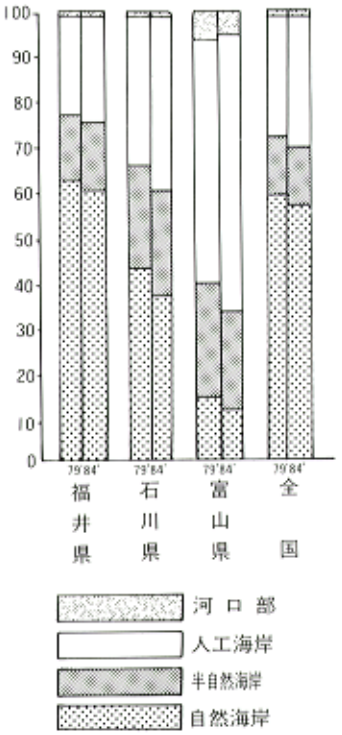
〈吉崎舟まいりの復活〉

金津町では、毎年４月23日から５月２日までの10日間、吉崎御坊で蓮如忌が営まれていますが、昭和62年度に30年ぶりに吉崎舟まいりが復活されました。

昔懐かしい渡し船を復活させるほか、肉付き面太鼓や地元民話の紙芝居披露、吉崎名物販売の物産コーナーなど、湖面を中心とした多彩なイベントが催されています。



5）海　　岸



海岸線の区分比較

（資料：自然環境保全基礎調査(79',84')）

本県の海岸線延長は約360kmですが、この中で自然海岸の割合は比較的高く、また、国定公園の指定によって、すぐれた自然環境の保全が図られています。

嶺南地域の海岸線には、見事な段丘が発達しており、これらの海岸線が侵食されてできた海蝕崖と奇岩が造る男性的な隆起性の岩石海岸は、越前加賀海岸国定公園に指定され、本県を代表する観光資源としての利用が図られています。

また、嶺南地域は、典型的なリアス式海岸の景勝の地に恵まれ、海岸全体が若狭湾国定公園に指定されています。

このように、すぐれた自然景観を有する本県の海岸の保全を進めるとともに、アメニティ資源としての健全な利用の促進を図るため、県では東尋坊における環境整備事業や越前海岸旅情公園化事業に取り組んでいます。

さらに、海水浴や海釣り、花火大会などのイベントの場としての利用をはじめ、小浜市鯉川における人工養浜による公園化、三国町における海浜自然公園整備など、アメニティ資源としての様々な利用が図られています。

一方、港湾においても、従来の物流拠点としての利用のみにとどまらず、港での人の交流・憩い・遊びといった生活、レジャー機能の導入を目指した「敦賀港ポートルネッサンス21(敦賀市)」などの取り組みがみられています。

また、海岸護岸についても小浜市日吉海岸では、カラーブロックやカラフルな絵を設置した修景護岸が取り組まれるなど、市民が憩える場としての工夫が進められています。

今後、海岸のすぐれた景観の保全を図っていくとともに、それらとのふれあいの場の創造を目指して、護岸や道路沿線の修景化などの環境整備を積極的に進めていくことが必要です。

アメニティ・トピックス

〈白砂青松を守れ／(松原サミット)〉

昭和63年、敦賀市において「第２回松原友好市町交流会議」（松原サミット）が開催されました。（第１回は昭和62年、兵庫県西淡町で開催）

この会議は、美しい松原を持ち、白砂青松を誇る全国五市町（福井県敦賀市、静岡県清水市、香川県津田町、高知県大方町、兵庫県西淡町）の各市長、町長、教育長らが集い、松原の景観保存法などについて意見や情報を交換しあう場となっています。

なお、敦賀市の「気比の松原」と美浜町の「根上がり松群」は、白砂青松100選（日本の松の緑を守る会）に選ばれています。

